

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

④ICT技術を利用した遠隔教育の推進

E. 学習・研究環境の改善

④ICT技術を利用した遠隔教育の推進

《理工農系》

●東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻

「大学連携によるICTリーダーシップ教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

円滑な遠隔講義を実現するためにハイビジョン対応のシステムを導入し、それらは大学間の授業交換で大きく活用できたが、その運用体制を整えるのが困難であった。具体的には、(1)授業を実施する教室における遠隔講義システムの操作、(2)授業を受ける側であるリモート教室における遠隔講義システムの操作、(3)2教室間における問題発生時の連絡体制の整備の三点が問題となった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

遠隔講義が無い状態では、授業を実施する教員は自らが存在する教室だけマネジメントすれば良いが、遠隔講義システムを利用した場合、遠隔講義システムの操作やリモート教室の状況の把握など、教員の担当する作業が増加するのが主な要因である。具体的には、東京大学から慶應義塾大学に授業を配信する場合、その授業そのものは東京大学でも実施されており、東大側の教員は遠隔講義システムの操作や運用に気を配る余裕が十分でない。遠隔講義システムそのものは、双方の大学の学生があたかもそこにいるかのように見せられるものであったが、その運用を誰がやるべきなのかが不明確であった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

問題の解決方法として、遠隔講義システムを操作する要員を双方の教室でTAとして採用し、遠隔講義システムの操作と授業実施教室とリモート教室の連絡をお願いした。これにより、教員の手を煩わせることなくこれらの問題を解決できたが、TAの雇用が発生したことによるコスト増は問題として残されている。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例《非公表プログラムの事例》

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

《非公表プログラムの事例》

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

●事例 1 2

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

- ・本プログラムでは、アジア・太平洋地域の様々な国々の大学・研究機関と連携関係を構築し、コロキウム等の場において、IT や e-Learning を活用した連携講義について協議した。e-Learning については、新たなコンテンツ作成等の試行的取組を行ったが、連携講義の実施には至らなかった。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・関係者間では、IT や e-Learning を活用した連携講義実現への関心は高かったものの、IT システム整備、国間でのカリキュラム調整、単位認定、時差への対応等について課題が残されており、具体的な実施には至らなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

- ・e-Learning コンテンツの開発や IT システムの運用に携わる専門的人材の確保が必要である。
- ・また、連携講義を実施する大学間での IT システム整備と互換性の検討、大学間でのカリキュラム調整、単位認定等への対応についても、十分な準備が必要である。